

琵琶湖北湖沿岸および内湖におけるホンモロコの産卵状況と水位の影響

寺井章人

1. 目的

ホンモロコは水面付近の産卵基体に産卵を行う特性を有し、水位低下による産着卵の干出死亡が危惧される。当场では産卵状況と産卵期間中の水位低下の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2 地点)と周辺内湖(2 地点)において産卵調査を過去から継続して実施しており、2023 年度も同様に調査を実施した。

2. 方法

琵琶湖沿岸(大津市小野、長浜市延勝寺)と周辺内湖(西の湖、伊庭内湖)の計 4 ヲ所において、約 50~100m のヨシ・ヤナギ帯で、2023 年 3 月中旬から 6 月下旬まで原則 1 回/週の頻度で産卵状況および調査定点での水深(現場水深)を測定した。調査時の産卵状況および次回調査時の現場水深から、ふ化までの期間中、主に水中にあったと推察される卵を生存卵、主に水面上にあったと推察される卵を死亡卵、それ以外を不明卵として評価した。

3. 結果

産着卵は 4 月中旬から 6 月中旬頃まで確認された(図 1~4)。それぞれの調査地点において、近年の本種の資源回復に伴い産卵期間が長期化する傾向にあり、本年についてもその傾向は継続していた。

例年 5 月下旬から 6 月上旬にかけて連続した琵琶湖の水位低下が見られるが、本年は低下開始がやや遅く、6 月上旬からであった。そのため北湖沿岸では産卵盛期が水位低下時期と重ならず、例年に比べ死亡卵の割合は低かった。一方、内湖では産卵盛期が 5 月 10 日の降雨出水後の水位低下と重なり、生存卵の割合が著しく低下した。水位が産着卵に与える影響は年ごとに大きく異なることから今後も継続したモニタリングが必要である。

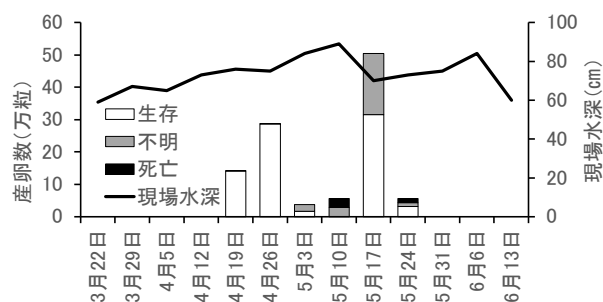


図 1 大津市小野における産着卵数の推移

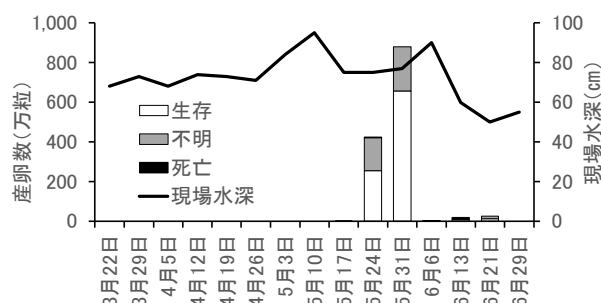


図 2 長浜市延勝寺における産着卵数の推移

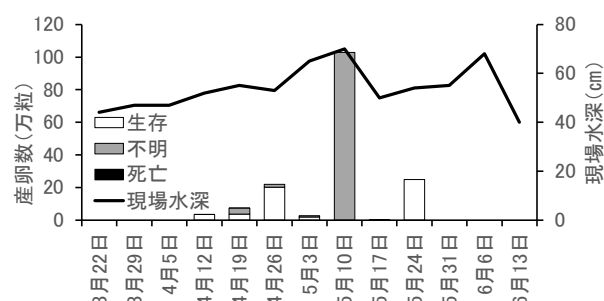


図 3 西の湖における産着卵数の推移

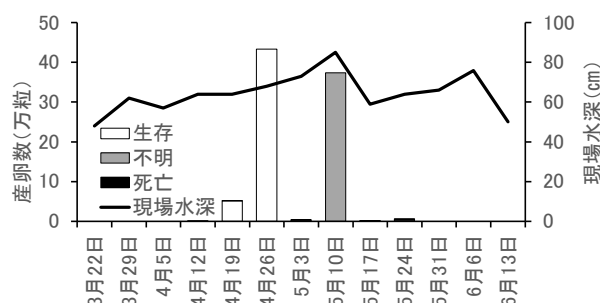


図 4 伊庭内湖における産着卵数の推移